

水道水と働く人々

横浜市立篠原中学校

三年 丘山 麻亜子

日本で水道水を飲むことができるのはなぜか、考えたことがあるだろうか。私達は毎日、お風呂に入るとき、手を洗うとき、歯を磨くときなど、たくさん水道水を使っている。しかし私はある出来事をきっかけに、安全な水道水を使えることが当たり前ではないことを知った。中学二年生の夏、海外で泊まった寮では水道水が汚く、顔や手も洗えなければ、歯を磨くことさえ難しかった。出てくる水は茶色く、蛇口は錆びていて、日本で水を使う私にとっては受け入れがたい出来事だった。そのとき私は、日本で水道水を飲めることが、世界では当たり前ではないことなのだと実感することができた。このことをきっかけに、なぜ日本の水はあんなにも透き通っていて綺麗なのだろうかと疑問を持った。

調べてみると、日本ではいくつもの工程を重ねることで透き通った綺麗な水道水を作っていることがわかった。例えば安全な水道水を作るのに欠かせない施設である浄水場では、水を消毒したりろ過させたりすることで安全な水を作る役割を担っている。また、配水池という施設では、浄水場で作られた水を貯めて、適切な水圧で各家庭に送る役割を持っている。このように、たくさん施設によって、安全な水道水が作られているのだ。

では水道業で働く人々はどんなことをし、どんな課題を抱えているのだろうか。今思うと、私は一切水道業に関する仕事に触れたことがなかった。触れたことがなかったからこそ、調べた結果に本当に驚いた。水道業で働く人々は、水道管の設置や修理、水道施設のメンテナンスなどを行っている。これらの仕事は身体の負担も大きく、夜間対応をすることもあるそうだ。更に水道業界では人材不足や設備の老朽化などの課題も抱えている。これを知って、課題を抱えながらも一生懸命働いてくださっている方々に対し、感謝の気持ちでいっぱいになった。そして私達にできることがあれば協力していきたいと強く感じた。

一つ目にできることとしては国全体との協力だ。例えば専門学校や大学との連携をより一層強化し、人材不足を解消すること、高性能な水道管の導入により、漏水や破損を防ぐこと、などが挙げられる。しかし、これらは簡単に実行できることはない。

そこで、二つ目にできることは、節水や水質保全だ。みなさんはお母さんや先生に「手を洗うときはこまめに水を止めなさい。」と言われたことはないだろうか。この、「こまめに水を止める」ということも節水の一つだ。他にも、食器や野菜を洗うときはため水をする、お風呂の残り湯を洗濯に使う、洗剤は環境に優しい「オーガニック洗剤」を使う、などのことができる。水道水を作るときには、川の水や家庭で捨てた水が使われる。だからこそ節水や水質保全を心がけることは重要なことなのだ。最後に三つ目にできることは、水道業について興味を持ち、そこで働く人々に感謝の気持ちを持つことだ。多くの人は安全な水道水を使えることが当たり前になっている。しかし、安全な水を飲んでいるのは、そこで働く人々が私達の生活を支えてくれているからだ。今、これを読んでいるあなたにも水道水を使えることのありがた

さを感じてほしい。そして安全できれいな水を使えることは幸せなことなのだ、心に止めながら過ごしてほしい。

私達ができることは少しずつ進めていこう！